

C-68 家庭洋裁に関する調査研究(第5報)

東京家政大家政 〇本郷美枝 潮田美智子 高山瑞栄

目的 第4報に同じである。

方法 調査時期、調査対象および方法は前報と同様である。第5報の調査内容としては、家庭にある洋裁の道具類(ミシン・アイロン・人台など)の有無、作業室の有無・家庭洋裁をする理由・どのようなもので家庭洋裁をして行なうか、特に洋服を縫うと答えた人は、主に何を縫うのかと、回収総数117名について、集計、考察した。

結果 各項目の実態の結果を報告、考察するにしようとする。

家庭にある洋裁の道具類として、ミシンのある家庭は、98.0%で、種類としては直線縫いの足踏み式が多い。アイロンについては、97.7%の所有し、人台を持つている家庭は13.8%であり、特別な作業室のある家庭は5.5%であった。家庭洋裁をする人72.2%の結果は、する理由としては、身体に合わせられる26.7%、ごまかすから25.3%、経済的25.1%などである。家庭洋裁の内容としては、洋服を縫う21.8%、つくろいものとする20.4%、カーテンを作る20.0%、ガブトン、既製品に手を加えるなどであった。この中でも特に洋服を縫うと答えた人については、スカートと縫うと答えた人が28.8%、ワンピース・ドレス23.4%、ブラウス17.1%、子供服15.6%などであり、いずれも日常着が主であった。